

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 84 号

2018 (平成30)年3月17日(土)

『春 愁』

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

北国の春の訪れは何と遅いことでしょう。冬の間、人々は灰色の空の下で長く雪に埋もれながら静かに春を待ちます。やがて雪が解け、土が見えてきます。長い間、雪に閉ざされていた人々にとって、それは言葉にできない程の悦びとなるのです。雪が解けて土が現れる。ごく、あたり前のことが殊の外、嬉しく感じ心躍るのは私だけではないと思います。

春はまた、別れの季節でもあります。卒業・転勤と、これまで慣れ親しんだ人達と別れ別れにならなければならない寂しさは辛いものがあります。

春の愁と書いて春愁と読みますが、春の季節にふと感じるもの寂しいけだるい気持ちのことです。人は生涯、幾度となく困難に出遭い、我慢を強いられます。しかし、それが苦しければ苦しい程、些細なことにも喜びや幸せを感じることができるよう。そして、その困難を乗り越え、志を成し遂げた時の達成感格別なものになるのです。

厳しい冬のあとには必ず春が来て、陽光が降り注ぎます。今、たとえ不遇のうちにあるとしても、それは後の喜びを倍加させる試練ともいえるのです。

さあ、前を向いて着実な一歩を踏み出しましょう。春はもうそこまで来ています。

熟 生 紹 介

山本 蘭 さん 氏 名 安藤 さやか さん

札幌三育幼稚園 幼稚園・勤め 会社員

プールと工作 好きなこと・教科 体育

幼稚園のかおり先生 尊敬する人 父母・祖父母

そ の 他

この塾に通い始めて2年になりました。論語の字は読めないし、わからないけれど、一番大切なことは誰とでも仲良く、優しくすることだそうです。思いやりの心が芽生えてきたのだと思います。

趣味は読書・ヨガ・スキー・旅行などですが、時間がとれないのが残念とのこと。大学より上京、2015年に故郷の北海道に戻り、実家家業で働いているそうです。

先生からのコメント

とても元気で可愛い4歳児です。小2の兄と仲良くで論語と坐禅に取り組んでいます。週一回お祖父さんの家に泊まり、猫と遊ぶのが楽しみとのこと。日曜日はお父さんが絵本を読んだり、森と一緒に連れて行ってくださるそうです。優しいお父さんですね。論語塾へ行くのを楽しみにしているそうです。

毎日、仕事と子育てで時間が過ぎてしまうそうです。一息ついて、孔子先生の教えを学び、人生を考えてゆきたいと思っているそうです。大学では宗教哲学なるマニアックな分野を専攻し、九州の一地域のカクレキリシタンについて卒論を書いたとのこと。中々、ストイックな方のように思います。

ファイル名 : 論語教室だより第 8 4 号.docx
フォルダー : C:\Users\yohta\Documents
テンプレート : C:\Users\yohta\AppData\Roaming\Microsoft\Templat
es\Normal.dotm

表題 :

副題 :

作成者 : ishikawa

キーワード :

説明 :

作成日時 : 2018/03/03 9:15:00

変更回数 : 3

最終保存日時 : 2018/03/03 9:18:00

最終保存者 : ishikawa

編集時間 : 3 分

最終印刷日時 : 2018/03/13 17:55:00

最終印刷時のカウント

ページ数 : 1

単語数 : 2,145 (約)

文字数 : 12,231 (約)